

建築主：日産自動車株式会社 若狭保夫

設計者：株式会社日本設計 大坪 泰、人見泰義、西川大介

施工者：清水建設株式会社 加藤喜久



建物外観（撮影：木田勝久）

建築概要

建設地：神奈川県厚木市森の里青山1-1

建築主：日産自動車株式会社

設計：株式会社日本設計

施工：清水建設株式会社

竣工：2007年5月

建築面積：15,988.59㎡ 延床面積：69,471.94㎡

階数：地上7階、地下1階 高さ：41.46m

構造種別：鉄骨造

選評

「クリエイティブなワークスペースをつくりたい」。日々、グローバルな技術開発競争にさらされている発注者の要望を、免震構造を採用して建物形態の自由度を高め、「感性を刺激する」「コミュニケーションを活性化する」「自然の恵みを大胆に活用する」ワークスペースを構築してかなえた。

構造の特徴は、雞壇状の執務空間をガラスの大屋根架構が覆っていること、その事務所部分と駐車場が異なる構造形式で合築していることである。地下1階の柱頭に免震支承を設置することで、大屋根架構を含む上部構造の水平力の伝達をスムーズにすると同時に、開放的な吹き抜け空間、事務所と駐車場の合築を実現した。

また、二酸化炭素の排出削減に取り組む企業姿勢が、トップライトを持つ大空間の床吹き空調、ソーラーチムニーを活用した自然通風、庇兼用の太陽光パネル、光触媒を利用した屋根散水システム、緑化など、様々な環境技術の導入に表れている。

本建物は、免震構造の採用が軽快な意匠、合理的な構造、先端的な設備の導入を可能にし、ユーザーの望むワークスペースの創出に大きく寄与している点で、当協会作品賞に相応しいものである。野中郁次郎氏提唱の知識創造システム「SECI（セキ）モデル」も研究しているという発注者のこの開発拠点から、世界の先を行く新技術が次々と生み出されることを期待する。

（平島 寛）

免震化した経緯及び企画設計等

本建物は、日産自動車における先進技術開発の中核施設であり、ここで働く人々のコミュニケーションを活性化し、創造力を刺激するオフィスが求められた。

免震構造を採用することにより、トップライトのもつ透明感を生かしたスレンダーな屋根架構を可能とし、光に溢れ、創造力を刺激する雞壇状の執務空間を実現している。

また、大きな構造コアを設けることなく大スパンによるフレキシブルな無柱空間を生み出すとともに、オフィスと駐車場という異なる機能を合理的に積層して合築している。

技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

約6,000㎡ある雞壇状の吹き抜け空間は、本体架構からY字柱で支持された屋根架構に覆われている。

屋根架構は、トップライトの見通しがよく軽快なイメージとなるよう、小径の鋼管を組み合わせたフィーレンデル梁としている。

屋根に生じる地震力は免震効果により大きく低減され、屋根の外周および本体コア直上にある水平ブレースのみで面内剛性確保し、本体架構への応力伝達を可能としている。また、面内変形が小さいことでサッシのディテールは単純化されコンパクトになり、より透明感のあるトップライトとなっている。



建物内観1（撮影：木田勝久）



建物内観2（撮影：武田匡史）